

10月22日に愛知県設楽町内の段戸国有林で車両機械等の実演会を開催しました。

当所では、林業の労働負担を軽減することは、林業従事者を増やすきっかけとなると考えています。特に、鳥獣対策や造林などの部門では、生産部門と異なり機械化が行いにくく、高齢化とともに従事者の減少が見られます。当日はあいにくの雨模様でしたが、市町村職員や猟友会員、所員の約20名が見学と実際の操作を体験しました。

ニホンジカ等の獣類を捕獲して、林道まで運び出すことは重労働で敬遠されがちです。これを楽に、新鮮な状態で運び出すことができればジビエの推進にもつながります。今回、「自動冷却搬送機」を開発したオンサイトック(株)により操作実演が行われました。また、東海農政局の職員から、導入のための支援について制度面から説明が行われました。体験した方々は、口々に思ったより操作が簡単と驚いていました。



「自動冷却搬送機」のデモンストレーション



東海農政局職員による支援等の説明



参加者による「電動クローラ型一輪車」の操作

急な造林地で、コンテナ苗等の資機材を運搬することは大変に重労働なことです。この負担を軽減するために市販されている、クローラタイプの自動一輪車の操作を体験していただきました。また、動作を補助するアシストスーツ等の装備や、女性に配慮した仕様を盛り込んだ林業用車両の紹介も行いました。

最後に、当所で考案した「受け流す柵」を見学していただきました。これまでは、シカ対策のために設置した柵が沢部での出水により、周辺を含んだ倒壊などの被害を受けていました。沢部への受け流す柵の設置により、被害を最小限にすることができるとともに、補修を誰でも簡単に行えることの利点も理解していただきました。

このように、多くの方が操作体験することは利便性を理解するうえで重要です。参加者からは、新たな改良点や工夫についての意見が出されるなど有意義な会となりました。当所では今後もこのような会を催し、民国連携を進めたいと考えています。



「受け流す柵」の当所職員による説明